

# 「栃高の日」新聞 第32号

発行者：校長 大橋芳樹 発行日：平成30年11月16日（金）

## 第57回栃高31km耐久レースの結果について

去る10月28日（日）、晴天の下行われた第57回栃高31km耐久レースの各学年の上位5人の記録は下記の通りでした。勇気をもって途中棄権した生徒諸君も含めて大変頑張りました。生徒諸君の「遮二無二」にチャレンジする姿に感動しました。大変お疲れ様でした。交通安全面での課題があり、来年度に向けてコースを見直す予定です。



＜第3学年5傑＞ *敬称略			
1位	6組	梅沢 龍輝	(2時間07分09秒) 総合 1位
2位	1組	西澤 敬太	(2時間10分38秒) 総合 2位
3位	3組	伊藤 祐希	(2時間19分37秒) 総合 11位
4位	2組	廣瀬 悠月	(2時間30分05秒) 総合 42位
5位	2組	島田 裕貴	(2時間30分06秒) 総合 43位
＜第2学年5傑＞ *敬称略			
1位	1組	井上 駿木	(2時間13分22秒) 総合 5位
2位	2組	中村 颯太	(2時間14分29秒) 総合 6位
3位	4組	山崎 勇武	(2時間15分10秒) 総合 7位
4位	2組	佐藤 悠空	(2時間16分49秒) 総合 8位
5位	3組	加藤 丈	(2時間18分29秒) 総合 9位
＜第1学年5傑＞ *敬称略			
1位	1組	愛沢 誠也	(2時間12分03秒) 総合 3位
2位	5組	小林慎太郎	(2時間13分06秒) 総合 4位
3位	4組	中嶋 大智	(2時間18分38秒) 総合 10位
4位	2組	毛塚 凜	(2時間20分17秒) 総合 12位
5位	2組	町田 恒介	(2時間20分37秒) 総合 13位

## \*\*「世界三大〇〇」シリーズ第8弾\*\*

「世界三大〇〇」シリーズ第8弾は、「世界三大運河」の話です。「世界三大運河」とは、「スエズ運河」、「キール運河」、「パナマ運河」のことです。「地中海と紅海とを結びたい」という思いは古くからあり、紀元前510年頃にはペルシアのダレイオス1世が運河を計画していたといわれています。たゆまぬ努力で、人間の夢はいつかは叶うものなのです。

＜スエズ運河＞エジプトのスエズ地峡に位置し、地中海と紅海を結び、海面と水平な人工運河。1869年開通。アフリカ大陸を回らずにヨーロッパとアジアを海運で連結することができるようになった。長さ193km、水深24m、幅205m。1956年にエジプトが国有化。石油を運ぶタンカーの大型化に伴い拡幅、増深が進められた。



＜キール運河＞ユトランド半島をドイツ北部シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州で横断し、北海とバルト海を繋ぐ運河。正式名称は北海バルト海運河。1895年開通。波の荒いユトランド半島とデンマークが課したエーレスンド海峡の高い通行税を避けるため、アイダー運河を9年かけて拡張。長さ98 km、水深11 m、幅102 m。

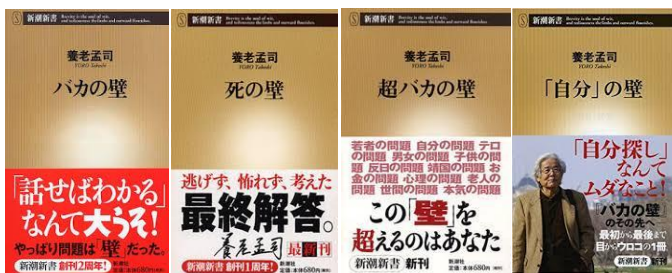


＜パナマ運河＞パナマ共和国のパナマ地峡を開削した太平洋とカリブ海を結んだ閘門（水位を調整する門）式運河。1914年開通。スエズ運河を拓いたセップスの手で開発に着手したが挫折し、アメリカ政府が引き継いだ。マゼラン海峡やドレーク海峡を回り込まずにアメリカ大陸東海岸と西海岸を海運で行き来できる。長さ82km。



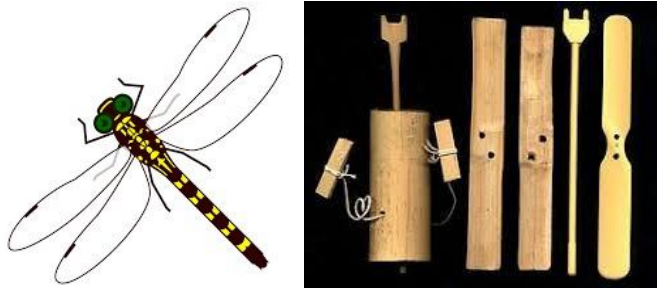
## \*\*「贈る言葉」⑧\*\*

「壁は全て、自分が作っている」  
解剖学者で東京大学名誉教授の養老孟司の言葉です。2003年に出版した『バカの壁』（新潮社）はベストセラーとなり、題名の「バカの壁」は新語・流行語大賞を受賞しました。『バカの壁』に加えて、『死の壁』、『超バカの壁』、『「自分」の壁』などを代表とする多くの「壁」シリーズを書いています。そのような「壁」の専門家がいう言葉には重みがあります。越えられない「壁」が存在すると思って、その「壁」の中に閉じ籠っているのは自分自身なのです。もしかすると、そのような「壁」なんて元々存在しないのかもしれない。



## \*\*「日本語って難しい！」⑧\*\*

「羽」と「羽根」  
鳥や昆虫などの、体についている状態のハネは「羽」と書き、体から離れてばらばらにされたハネは「羽根」と書くのが一般的です。また、鳥を連想させるようなものや鳥の姿にたとえたものには「羽」を使い、羽形に加工されたものや形状を真似たものには「羽根」を使います。したがって、「チョウチョのハネ」、「ハネを広げる」、「ハネを伸ばす」、「ハネを休める」の「ハネ」は「羽」と書き、「赤いハネ募金」、「ハネ布団」、「ハネペン」、「ハネつき」、「扇風機のハネ」の「ハネ」は「羽根」と書きます。「トンボのハネ」は「羽」で、「竹とんぼのハネ」は「羽根」です。元々は、「羽」を「は」と読み、「羽根」で初めて「はね」という読みになったものが、時間を経て変化したものだといわれています。



1月19日（土）の大学入試センター試験まで



あと **64** 日

「栃高の日」は「とことんチャレンジ」

11月の「栃高の日」は、私は  
【 】  
にチャレンジします！  
\*【 】の中に自分で選んだものを書き入れよう！

チャレンジ満足度[ 5・4・3・2・1 ]

\*一日を振り返って、チャレンジ満足度を5段階で自己評価しよう！

第31号の『「元号」特集②』に書いたように、「平成」に続く新元号については、政府は改元の1ヶ月前ごろに発表することを想定しています。新元号は、1979年に制定された「元号法」や選定の具体的な方法を定めた要領に従って決定されることになりま。新元号決定までの流れを下に示します。

### 1 候補名の考案

(1) 内閣総理大臣は、高い識見を有する者を選び、これらの者に次の元号とするのにふさわしい候補名（以下「候補名」という。）の考案を委嘱する。

(2) 候補名の考案を委嘱される者（以下「考案者」という。）は若干名とする。

(3) 内閣総理大臣は、各考案者に対しおおそ2ないし5の候補名の提出を求めるものとする。

(4) 考案者は、候補名の提出にあたり、各候補名の意味、典拠等の説明を付するものとする。

### 2 候補名の整理

(1) 総理府総務長官（現在は官房長官）は、考案者から提出された候補名について検討し、整理し、その結果を内閣総理大臣に報告する。

(2) 総理府総務長官（現在は官房長官）は、候補名の検討及び整理にあたっては、次の事項に留意するものとする。

ア：国民の理想としてふさわしいよい意味を持つものであること。

イ：漢字2字であること。

ウ：書きやすいこと。

エ：読みやすいこと。

オ：これまでに元号やおくり名（天皇・皇后などの崩御後の称号）として用いられたものでないこと。

カ：俗用されているものではない（一般的に使われていない）こと。

### 3 原案の選定

(1) 内閣総理大臣の指示により、内閣官房長官、総理府総務長官及び内閣法制局長官による会議において、総理府総務長官（現在は官房長官）により整理された候補名について精査し、新元号の原案として数個の案を選定する。

(2) 全閣僚会議において、新元号の原案について協議する。また、内閣総理大臣は、新元号の原案について衆議院および参議院の議長及び副議長であるものに連絡し、意見を伺う。

### 4 新元号の決定

閣議において改元の政令を決定する。

## 「元号法」によって改元された初めての元号となった「平成」はどのようにして決められたのでしょうか？

1989年（昭和64年）1月7日に昭和天皇が崩御されて、皇太子の明仁親王が新天皇に即位されました。これを受け、1989年（昭和64年）1月7日に「元号法」に基づき改元の政令が出され、その翌日を「平成元年1月8日」とすることにより改元がなされました。なお、崩御を前提とした手続きは事前に行なえないため、改元の際は崩御当日に正式な手続きに入り、翌日に改元が行われました。こうして「平成」は「元号法」によって改元された最初の元号となりました。

いくつかの資料から読み取れた改元までの過程を、時系列に沿って記載します。内閣内政審議室は、昭和天皇が崩御された1月7日の早朝に、事前に考案を依頼しておいた中国哲学が専門の宇野精一東京大学名誉教授、国文学が専門の市古貞次東京大学名誉教授、中国文学が専門の目加田誠九州大学名誉教授、東洋史が専門の山本達郎東京大学名誉教授を正式な考案者として委嘱しました<1>。内閣内政審議室は、この4名の考案者から提出された10ほどの候補名の中から最終的に、山本氏考案の「平成」、目加田氏考案の「修文」、宇野氏考案の「正化」の3案に絞り、竹下登首相に報告し、了解を取りました<2>。

(1)(2)>。内閣内政審議室は、その日の午後開催された「元号に関する懇談会」（8人の有識者で構成）と衆参両院正副議長に「平成」、「修文」、「正化」の候補名を示し、意見を求めました。この時、当時の内閣内政審議室長であった場順三氏から明治以降の元号のアルファベットの頭文字を順に並べ、「MTSの後はHが据わりがよいでしょう」との意見があり、「平成」に絞り込まれたということです<3>。

(2)>。その後、開かれた全閣僚会議でも「平成」で意見が一致し<3>。同日14時10分から開かれた臨時閣議において、新元号「平成」が正式に決定されました<4>。同日14時36分に行われた記者会見で、小淵恵三内閣官房長官から、新元号「平成」が発表されました。

## 「平成」の典拠や意味などは何でしょうか？

新元号「平成」の発表時に小淵恵三内閣官房長官が述べた「平成」という元号の典拠は、『史記』五帝本紀の「内平外成（内平かに外成る）」、『書経』大禹謨の「地平天成（地平かに天成る）」で、「国の内外、天地とも平和が達成される」という意味があります。「平成」は、「昭和」から改元されるにも、元号の候補名となったことがあります。江戸時代末期、「慶応」と改元された際の候補名に「平成」があり、出典も同じ『史記』と『書経』からとされています。

## 「元号法」が制定される以前の「明治」、「大正」、「昭和」はどのようにして決められたのでしょうか？

1868年10月23日（慶応4年9月8日）の明治天皇の即位により、「改元の詔書」が出され、「慶応」から「明治」に改元されました。「改元の詔書」には「改慶應四年為明治元年（慶応4年を改めて明治元年と為す）」とあり、慶応4年1月1日（1868年1月25日）に遡って適用され、法的には慶応4年1月1日より明治元年となりました。また、「一世一元の詔」もあわせて出され、天皇在位中の改元は行わないものとされました。新元号については、江戸幕府の第12代将軍徳川家慶の従弟で、幕末四賢侯の一人といわれた松平春嶽のように願がけを出したいくつかの案から明治天皇がくじ引きをし、「明治」が選ばれたそうです。「明治」という元号の典拠は、『易経』の「聖人南面而聴天下、嚮明而治（聖人南面して天下を聴き、明に嚮（むか）ひて治む）」で、「聖人が北極星のように顔を南に向けてとどまることを知れば、天下は明るい方向に向かって治まる」という意味があります。「明治」は、過去の改元の際に江戸時代だけで8回、計10回候補名になったことがあり、11回目で採用されました。

1912年（明治45年）7月30日に明治天皇が崩御され、大正天皇が即位し、「改元の詔書」が出され、「明治」から「大正」に改元され、同日は「大正元年7月30日」となりました。大正天皇実録によれば新元号の候補名として「大正」、「天興」、「興化」、「永安」、「乾徳」、「昭徳」がありましたが、「大正」、「天興」、「興化」の3案に絞られ、枢密顧問の審議により「大正」に決定されました。また、大正改元を『朝日新聞』が政府発表前にスクープしたことがあったそうです。「大正」の典拠は、『易経』象伝・臨卦の「大亨以正、天之道也（大いに亨（とほ）りて以て正しきは、天の道なり）」で、「天が民の言葉を嘉納し、政が正しく行われる」という意味があります。「大正」は、過去の改元の際に4回候補名になったことがあり、5回目で採用されました。

1926年（大正15年）12月25日、大正天皇が崩御され、昭和天皇が即位し、「改元の詔書」が出され、「大正」から「昭和」に改元され、同日は「昭和元年12月25日」となりました。1926年の最後の1週間だけが昭和元年となりました。当時枢密院議長だった倉富勇三郎の日記によれば、宮内省（現：宮内庁）作成の新元号の候補名として「神化」、「元化」、「昭和」、「神和」、「同和」、「継明」、「順明」、「明保」、「寛安」、「元安」がありましたが、数回の勘申の結果、「昭和」を候補とし、「元化」、「同和」を参考とする最終案が決定したそうです。一方、内閣では、「立成」、「定業」、「光文」、「章明」、「協中」を新元号の候補名としてあげていたそうです。そのためか、『東京日日新聞』（現在の『毎日新聞』）が「新元号は『光文』」と誤報したとされている「光文事件」が起こっています。「昭和」の典拠は、四書五経の一つ『書経』堯典の「百姓昭明、協和萬邦（百姓（ひやくせい）昭明にして、萬邦（ばんぽう）を協和す）」で、国民の平和および世界各国の共存繁栄を願う意味があります。「昭和」という元号は、漢学者の吉田増蔵氏による考案だそうです。なお、江戸時代に全く同一の典拠で、「明和」（「百姓昭明、協和萬邦」）の元号が制定されています。

## 「平成」に続く新元号はどうなるのでしょうか？

「平成」に続く新元号については、下に示すようにネット上に多くの予想が掲載されています。しかし、その多くが先に示した候補名を決める際のルールに合致していないか、典拠が不明だったり候補名として成立しないものも多いようです。私としては、過去の改元の際に候補名となり典拠がはっきりしているものの中から採用されるのではないかと予想しています。生徒諸君の考えはいかがでしょう？

「寛富」	「和光」	「安久」	「安始」	「安和」	「栄安」	「旺星」
「静天」	「泰仁」	「新安」	「悠仁」	「源仁」	「拓仁」	「泰平」
「単巖」	「安流」	「空穩」	「導郷」	「源西」	「平米」	「安迎」
「光来」	「光榮」	「喜永」	「徳栄」	「和新」	「玉晴」	「幸成」